

湖北圏域 水害・土砂災害に強い地域づくり協議会 平成 20 年度の検討成果と今後の課題

検討事項(協議会承認)	平成 20 年度の検討内容	平成 20 年度の検討成果	平成 21 年度以降の課題
きめ細かい河川防災情報 の提供に関する検討	・ 水位関係表の精度向上にかかる検討 ・ 地元住民が注視する危険箇所での危険度把握手法の検討	・ 姉川・高時川沿川および天野川沿川の地元住民が注視する危険箇所において、地元が危険あるいは避難している水位を調査・把握した。 ・ 地元住民が注視する危険箇所と近傍水位局との水位関係を把握し、同箇所での分かり易い危険度把握手法として、水位関係表を利用した手法を提案した。 ・ 地元住民が注視している危険箇所において、水位の変化を目視で確認し易くし、市町の防災担当者のみならず沿川住民が、時々刻々の水位変化からその危険性を確認し、避難する際の判断指標となる簡易量水標をモデル 3 箇所に設置した。	・ 水位関係表の精度向上に向けた検証(量水標設置箇所) ・ 他河川への展開(余呉川、天野川、大川等) ・ 地区別避難計画の策定(モデル地区)
広域避難計画(案)の策 定に関する検討	・ 破堤シナリオに沿った図上訓練の実施 ・ 広域避難に向けた課題・解決案検討	・ 災害図上訓練を通して、各担当者は想定外規模の洪水が発生した場合の様々な課題について、認識を共有できた。 ・ 特に、福祉関係者からは災害時要援護者に関する課題が喫緊であるとの意見が多く、各担当者とも具体的な対応策の実施を早急にすべきとの認識を持てた。 ・ 災害図上訓練において抽出された課題に対する解決案について体系的に整理した。	・ NEXCO 中日本との協議継続(北陸自動車道への緊急時乗入道路の実現に向けて) ・ 広域避難計画(案)策定のための解決案の具体的検討 ※京都大学防災研究所が取り組む「地域間連携を考慮した広域避難計画策定に関する研究」との連携を図る。
自主防災組織の活動強 化支援対策の検討	・ マニュアル作成方針検討 ・ 自主防災組織活動事例集の検討	・ 湖北圏域内自主防災 WG の 3 市町における各地区について事例を収集し、各地区の特徴的な視点からとりまとめた。	・ 湖北圏域版の自主防災組織活動マニュアルの作成 ・ 自主防災 WG においては、土砂災害対策の課題抽出も含めて検討していく ※別途防災危機管理局にて作成中の自主防災組織活動マニュアルとの整合を図る。

湖北圏域 水害・土砂災害に強い地域づくり協議会 今後の展開(案)

【これまでの取組】

- ①きめ細かい河川防災情報の提供に関する検討
- ②広域避難計画(案)の策定に関する検討
- ③自主防災組織の活動強化支援対策の検討



【今後の展開(案)】

・平成21年度は今年度に引き続き「河川防災情報WG※1(仮称)」、「広域避難WG」、「自主防災WG」に分かれ、関連する市町毎に個別に検討を行っていく。なお、自主防災WGにおいては、土砂災害対策の課題抽出も含めて検討していく。

・新たに一定の地域※2を対象に具体的な対策を定めた「水害に強い地域づくり計画」を関係住民の参加を得て策定していく。(右図参照)

・各WGでの検討結果は、この「水害に強い地域づくり計画」に反映させていく予定である。

・平成22年度以降、策定された「水害に強い地域づくり計画」を基に、各主体が実践していく。

※1 きめ細かい河川防災情報の提供に関する検討を行うWG

※2 主要な河川に囲まれる「はん濫原」

☆ハザードマップ活用支援事業☆

【平成21年度新規制度として要望中】

ハザードマップを活用した以下の取組を行う市町に対して、その経費の1/2を県が補助をする。

- ・洪水ハザードマップの高度化
(中小河川、内水を含む浸水マップの反映)
- ・洪水避難訓練の実施
- ・危険度表示指標の設置
(簡易量水標、周知用看板の設置)
- ・地区別避難計画の策定 等

